

地震

慌てず行動することが安全の為の第一歩。
地震直後の津波情報にも耳を傾けてください。

ポイント 1 落ち着いて身の安全を確保する

テーブルや机の下に身を隠すなどして、まずは自分の身を守ってください。



ポイント 6 避難は徒歩で持物は最小限に

非常用品はリュック等に入れて一つにまとめておき、避難するときにはエレベーターや自動車は使用しないようにしましょう。



ポイント 2 あわてず冷静に出火を防ぐ

使用中の火を素早く消しガスの元栓を閉める。もしも火が出たら隣近所に協力を呼びかけ、落ち着いて消火にあたりましょう。



ポイント 7 狭い路地、塙ぎわ、川べりは要注意

狭い路地や塙ぎわでは、塙や自販機の倒壊、瓦の落下など危険が多いので遠ざかりましょう。川べりや崖は崩れる恐れがあるので近づかないこと。



ポイント 3 窓や戸を開け出口を確保する

建物のゆがみで戸が開かなくなる事があるので、出口の確保は確実に行いましょう。



ポイント 8 土砂崩れ、崖崩れ、津波に注意

危険のある地域では早めに避難し、救助員の指示に従ってすみやかに行動しましょう。



ポイント 4 停電後の通電火災を防ぐ

避難で家を空ける時は、電気プラグを全て抜いておき、通電した際の漏電や倒れた電気ストーブなどによる出火を予防しましょう。



ポイント 9 正しい情報、正しい行動

うわさやデマに惑わされないよう、ラジオやテレビなどで正しい情報を把握しましょう。



ポイント 5 慌てて外に飛び出さない

落下物や建物の倒壊など外には危険がいっぱいです。周囲の状況をよく確かめ、落ち着いて行動しましょう。



ポイント 10 避難は早めに、協力しながら...

お年寄りや体の不自由な人に声をかけ、ケガ人の手など、みんなで助け合い早めに避難しましょう。



津波

一瞬にして襲いかかる津波から災害を防ぐためには
とにかく避難する以外にありません。

1. 避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は1人ひとり違います。それぞれが判断し、適切な行動を取らねばなりません。

2. 地震の大きさで自己判断しない。

過去には、揺れが大きなくても津波がおきた例があります。1896年の明治三陸地震津波では沿岸での震度3程度でしたが大津波が押し寄せています。津波災害が予想される地域では、小さい揺れでも、揺れを感じなくても、避難を最優先にしましょう。

3. 津波がないという俗説を信じない。

1983年の日本海中部地震では海岸付近にいた人々が津波にさらわれるなどの被害が多数発生しました。この地震が発生するまでは、日本海側には津波はない。などという俗説がもっともらしくいわれたため、津波に対する住民の警戒心が不十分だったと指摘されています。根拠のない俗説に惑わされることなく、津波予報に耳を傾けましょう。

4. 避難に車を使わない。

基本的に車で避難するのはやめましょう。1993年の北海道南西沖地震では車で避難した人が多かったために渋滞してしまい、その結果逃げ遅れて津波に襲われ、命を落としてしまった人が多数いました。

5. 「遠く」よりも「高く」に。

津波が起こる可能性がある場合は、直ちに高台の方へ避難してください。近くに高台が無い場合は、頑丈な鉄筋の建物(3階以上)へ避難してください。

